

## 朝読書の時間で活用する

美祢市立大嶺中学校 丸谷 友克

**1 取組の経緯**

本校では、今年度の校内研修にあたって、職員が「授業改善部会」、「心の教育部会」、「学習支援部会」の三つの部会のいずれかに所属して研修を推進している。その中の「心の教育部会」では、「心を磨き、豊かな人間性を育むために、新しく道徳教材を開発するとともに、これまで実践してきた道徳資料を追実践して、よりよい道徳授業を積み上げていく。」ことを研究内容としている。具体的な研究内容は、①生徒が共感できる道徳教材の開発を中心とした魅力ある授業づくりとよりよい道徳授業の積み上げ、②これまでの実践事例を整理し、追実践することによる道徳資料の再活用、③「私たちの道徳」の活用、④よりよい人間関係づくりの研究（共に学び、高め合う、学校・学年・学級集団の雰囲気づくり、Fitの活用）の四つである。

2学期に、心の教育部会で、10月の「いじめ防止・根絶強調月間」での取組内容について話し合う機会があった。その中で、朝読書の時間に、「私たちの道徳」を校内放送で教員が朗読し、生徒がそれを聞きながら読むという活動を行うことになった。

**2 取組の実際****1 目的**

「いじめ防止・根絶強調月間」の取組として、「私たちの道徳」に掲載されている文章を、教員が読み聞かせることで、生徒同士のお互いを思いやる気持ちや他者理解、いのちの大切さ等について考えさせる。

**2 朗読の内容の決定**

「心の教育部会」の話合いの中で、どの部分を朗読するのか、誰が朗読するのかを決定した。いじめに関する内容はもちろんのこと、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の分析結果や「学習支援部会」が行った生活アンケートの分析結果から分かる現在の大嶺中学校の生徒の実態を踏まえ、本校生徒に読みきかせたい内容を「私たちの道徳」から、一つずつ精査しながら決定していった。

**3 朗読の内容**

具体的な朗読の内容は、次ページの【表1】で示したとおりである。校長や教頭をはじめ、教務主任、生徒指導主任、各学年主任とベテランの教師が中心となり、朝読書の時間に「私たちの道徳」から選出した文章を、校内放送で生徒に語りかけるように朗読をした。



【表 1】「私たちの道徳」の朗読内容一覧（10月実施）

実施日	テーマ	ページ	担当者
8（水）	認め合う心	72	3年学年主任
10（金）	人間の弱さと気高さ	120	教務主任
14（火）	相手のことを考える	55	1年学年主任
17（金）	かけがえのない生命	105	教頭
22（水）	真の友情	60	2年学年主任
24（金）	よりよい集団になるために	166	生徒指導主任
29（水）	感謝の心	82	教頭
31（金）	いじめ撲滅宣言	165	校長

#### 4 朗読の手順

朗読は、次のような手順で実施した。

- ◎ 放送の開始時と終了時には、チャイムをお願いします。
  - ◎ 本文のコピーを準備しますので、コピーした部分のみ朗読してください。
  - ◎ 文章の終わりが、投げかけ等で歯切れが悪い場合もあるため、ひと言加えられても構いません。
- 初め：「今から朗読を始めます。今朝のテーマは『〇〇〇』です。『私たちの道徳』の〇〇ページを開いてください。【間】 それでは始めます。」
- ～朗読～
- 終わり：「以上で、朝の朗読を終わります。」

### 3 実践を振り返って

「私たちの道徳」の読み物資料を使った授業は、本校でも当然ながら、どの学年も実施している。1学期には2学年で、「二通の手紙」で研究授業を実施し、2学期には3学年で、「二人の弟子」の授業を公開した。さらに、日々の活動の中で「私たちの道徳」を活用できないかと考えて行ったのが本実践である。

成果は二つある。まず、この取組をするために、「心の教育部会」に所属する教員7人が「私たちの道徳」を読み込んだことである。また、全校体制で実施したため、全教員が「私たちの道徳」を読み味わう機会となった。次に、生徒があらゆる教育活動で「私たちの道徳」を使うきっかけとなったことである。

課題としては、「私たちの道徳」をきちんと準備して朗読に臨めなかったクラスがあり、効果が半減したことと、校内放送で朗読を行うときに、朗読者によって声が大きすぎたり小さすぎたりすることがあったことがあげられる。きちんと準備させたり、事前に校内放送を使った朗読の練習をしてから本番に臨んだりするなど、準備をしっかりと行うことが大切である。

来年度もぜひ実施したいと考えている。

